

# 博物館だより



No.146

平成31年1月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行  
福岡県京都市みやこ町豊津1122-13  
TEL 0930-33-4666  
FAX 0930-33-4667

## ◆博物館NEWS ①貴重な資料がまたひとつ増えました! 旧小笠原家別邸の 部材を寄贈頂きました

明治一五〇年の記念年末にゆかりの資料を頂戴しました。

明治初頭に豊津藩主を務めた小笠原家の私邸「御内家」の一部が横瀬地区に移築されていたのですが、取り壊しに伴い、部材の一部を寄贈頂いたものです。県下の近代旧大名家遺構は柳川藩主邸と当邸だけのことで部材とはいえ貴重な歴史資料です。ご寄贈有難うございました。



▲寄贈された建築部材 元は離れ座敷だったとことで端正な数寄屋風の面影がよく残されています



▲博物館で行われた開校式 皆さん学びの意欲満々でした

## ②ふるさと再発見の新たな取組み 「豊とみやこの歴史探訪」 講座スタート!

古くから「豊」や「みやこ」と称された京都平野の豊かな歴史と文化を再発見する「豊とみやこの歴史探訪」講座が12月14日から博物館で始まりました。博物館を拠点に、地域の歴史と文化を広域で再発見しようという取組みで、2月まで京都・行橋の文化財担当者が、新情報を変えて文化講演を行います。

## ◆講座教室・催し物ガイド 1月の歴史講座

- 【漢詩紀行講座】 1月5日(土) 9時30分
  - 【古文書講座】 1月13日(日) 10時
  - 【古典かな講座】 1月19日(土) 9時
  - 【みやこ学講座】 1月27日(日) 10時
- ※日程等変更となる場合があります。  
※見学会等は別途ご案内します。

## みやこ町文化財防火点検式

第65回文化財防火デーにちなみ、重要文化財・永沼家住宅で防火設備の点検放水を行います。見学自由で申込等は不要です。お気軽にお越し下さい!  
○日時・1月25日(金) 10~11時  
○場所・同住宅(犀川帆柱地内)  
○備考・豪雪や荒天時は中止することがあります。問合せは博物館(☎333-4666)へ。

## 11・12月の業務日誌から

11月14日(水)、勝山中学校1年生47名が博物館の見学に訪れ、館内見学後、古代の「火起こし」を体験しました。昔の人々が苦勞して火を起こしていたことを体感することで、現在の生活道具の有り難さを知ることができた1日となりました。

11月30日(金)、育徳館中学校1年生120名が来館しました。260年にわたる母校の歴史や、ゆかりの先輩について学んだほか、「世界の記憶遺産」に登録された母校の「宝」について詳しく学習することができました。

11月25日(日)、博物館友の会主催「秋の史跡散策バスハイク」で佐賀県唐津市方面を訪れました。当日は、様々なイベントとの重複があり、多くの人・車で混雑気味でしたが、好天に恵まれ、楽しく学習することができました。

12月1日(土)、年末恒例の「三重塔すす払い」が行われました。当日は40名近い参加者があり、塔内外とその周辺まで清掃することができました。参加いただいた皆様お疲れ様でした。



▲皆で協力して挑んだ火起こし 炎があがった瞬間は歓声が沸きました



▲唐津城下の「旧高取邸」前にて 豪華な邸宅の造りに驚きの様子でした



▲今年で260周年を迎えた母校の歴史を学びました



▲一年間の埃を落とし新年を迎える準備ができました

みやこの歴史発見伝 112

よしだますぞう  
吉田増蔵(その六)

漢学者を育んだ故郷の漢学文化

「平成最後」の年始め

新年早々、「平成最後の」という言葉を頻繁に聞くようになり、改元に伴う新元号の選定作業もいよいよ最終段階に向かっているものと思われま

す。前にも述べたようにこの作業は、古来から漢学の知識に秀でた有識者によって行われましたが、その時代の吉凶も左右しかねないため、漢字の組み合わせは言うまでもなく、その字画や構成する部首に至るまで縁起の良い漢字を充てることが求められました。現在も同様の作業が繰り返し行われていることを考えると、改めて「漢学者」の学識の高さに驚かされます。今回は、吉田増蔵という「漢学者」を輩出したこの地域で、どのように「漢学」の文化が育まれていったかをご紹介します。

藤本平山と「巖邑堂」

吉田増蔵は、兄健作と同様に、故郷上田近くの上稗田に村上仏山が開いた私塾「水哉園」で漢

学を学び、門下でも特にその才能に秀でた存在であつたと伝えられます。

師の村上仏山は、秋月藩(福岡支藩で現在の朝倉市秋月所在)で教鞭を執っていた原古処に学んで

います。原古処も福岡藩の儒学者、亀井南冥の門下で学び、特に詩文の才能に秀でた人物であつたと伝えられています。

水哉園は多数の優れた人物を輩出した塾として広く知られていました。この水哉園とは別に、現在のみやこ町勝山岩熊の地に「巖邑堂」という私塾があつたことは、あまり知られていません。この「巖邑堂」は村上仏山と深い親交があり、また優れた漢詩人として広く知られていた藤本平山という人物が開いた私塾です。藤本平山(名は雪蔵)は、寛政末頃に生まれ、号の「平山」は平尾台に由来して名づけられたと伝えられています。

藤本平山は、亀井南冥が開いた「亀井塾」で学んでいます。この塾では九州各地から特に優秀な人物が集まってその能力を競っていました。平山は、文化十四年(一八一七)にその塾頭を務めていることから、その能力の高さは師匠も認めるもので



▲吉田増蔵が青年期に詠んだ漢詩(故郷の地名がみえる)

また藤本平山は万延元年(一八六〇)五月一日に上田村の吉田健作、学軒の生家付近の家で亡くなったことが確認されています。

現在、故郷の岩熊に弟子「安田雲斎」らによって建てられた墓「平山先生藤本雪翁之墓」をみる事ができますが、この墓を建立した安田雲斎は、

行橋市椿市の出身で、京都郡医師会初代会長などを務めています。また行

橋市高来にある「安田雲斎懷徳碑」の碑文は吉田増蔵によるものであり、藤本平山と吉田増蔵との不思議な「縁」のようなものを感じます。

「巖邑堂」に関する詳しい記録が残っていないため、その所在地についてはよく分かっていませんが、一説に現在の諫山小学校の東側に位置する通称「小倉山」がその跡地とする見方もあります。

漢学文化のその後

昨年、明治維新一五〇周年を迎えましたが、近年、このような各地の私塾で行われた教育が維新の原動力になったという見方がなされ、大分県日田市にあ

る広瀬淡窓の開いた私塾「咸宜園」などは「日本遺産」に登録され、現在、岡山県備前市の旧閑谷学校等とともに「近世日本の教育遺産群」として世界文化遺産登録を目指した活動が行われています。

交通網が発達していない当時、諫山の地まで足を運ばせるほど、優秀な師がこの地にいたことは事実であり、また郷土の誇りでもあります。

新年を迎え、さらに新元号の発表が待ち遠しく感じますが、この地で育まれた漢学の一端を、間接的に吉田増蔵が学び、それを継承した上で「昭和」の元号や、天皇陛下下の称号・名前などを考案したことを考えると、より一層興味深く感じます。

【井上信隆】



▲諫山小学校(左)と小倉山(みやこ町勝山岩熊)